

社会で必要とされる英語発信力に関して

関谷 哲雄 (鷗友学園女子中学・高等学校教諭)

1. 英語学習の目的

外国語学習、この場合は英語学習を示すが、その目的は何だろうか。母国語以外の言語を学習・習得することによって得られるものは何だろうか。いわゆる知識・教養を積み上げることは当然であるが、対象が言語であるがゆえに、それだけでは不十分である。つまり言語を学習し、習得することの大きな目的・目標は、「使えるようになること」に他ならない。

この点において、英語という科目は他教科に比べると風当たりが強いような気がする。何故なら、「中学高校とほとんどの人が6年間、大学を卒業した場合は最低プラス2年間も英語を勉強しているのに、ろくに使えないのはどういうわけか」という議論がしばしばなされるからである。まずこの指摘に関して、私なりの経験から反論を述べたいと思う。一つは「どれくらい熱心に英語学習に取り組んできたか」である。これには自発的学習と、学校教育に代表される学習環境に分けて考えることができると思う。ネイティブの教員による英会話・L.L.教室・実践的なカリキュラムなどに恵まれていない時代や境遇でも、自分なりの学習で「使える英語」を身につけた人はたくさん存在する。語学の学習・習得には、その言語に触れる絶対的な時間や学習量が必要である。その時間とエネルギーが、仮に不毛の学習にのみ費やされたのであれば不幸と言うしかないかも知れない。ここで言う不毛の学習とは、目先の試験をクリアするだけの学習や不健全な入試問題の対策にのみ傾倒した学習を示す。しかし学習において「ムダ」はないと思う。理解力・記憶力を鍛える手段にもなり、また英語力の獲得という立場から考えた場合、少なくとも異なった言語体系を比較し、様々な表現を通じて教養を高める役割は果たしている。「使える段階にない状態」とは、全く学習が身に付いていないか、まだ不十分であるかのどちらかである。後者の場合は、必要に迫られて訓練を積むことによって獲得される。例えば企業に勤務する人が英語を日常的に使う部署に配属されたり、海外勤務になったりした場合には業務や日常生活に困らない英語力を身につけているものと思う。(註1)

もう一つは、「何故英語だけがやり玉にあげられるのか」という問題である。例えば「数学」や「理科」を考えてみたい。私は小学校で6年間、中学と高校で6年間、大学の一般教養課程でさらに1年間数学や理科を学んだ(大学1年生の時に数学と自然総合講座を履修)。もちろん小学校で学んだことや、中学高校の基本的な事柄は理解しているし、今でも「三角形の合同条件」や「氷が溶ける時に奪われる使われる熱量」などはスラスラと答えられる。また歴史や地理に関する知識も、クイズ番組の問題程度はおおかた対応できると思う。成績も飛び抜けて優秀だったわけではないが、それなりの

数値は残してきた。しかし、例えば三角関数の細かな公式や対数の高度な問題などは、まったく自信がない。高校2～3年の物理や化学のテスト監督に行くと、問題を見ても残念ながら分からない。それでも日常生活は困らないし、本当に必要となって勉強しなおせば何とかできるのではないかと考えている。学習到達の目安は学習者がどれだけの意欲と関心を持って学びを積み重ねるか、によってそれぞれだと思う。しかし様々な科目を学ぶことによって培われた知識・論理性・忍耐力などは、有形無形に日常に役立っているはずだ。英語が「身に付いていない」と避難される背景には、基本的なことを使う機会が与えられていなかったからではないだろうか。このことは英語学習のそもそもの目的や社会で役立つ英語の定義などを語る上で、大きなヒントを与えてくれているものと思われる。

実際に使用した教材の文を理解できる、ということは何を示しているのだろうか。まずは語彙がある。使われている単語の意味が分からなければ、文全体の理解には及ばない。また、文全体を支配している文法の構造が分からなければ、何を言おうとしているのか分からない。さらには、文脈や前後関係が理解できて、ようやくその「文」が分かったという段階に到達する。そのためには、何よりも予習・復習の積み重ねが大切とされてきた。まずは新出単語の意味を調べる。そしてその課で学ぶ新しい文法事項の説明に耳を傾け、練習問題を通してその事項に慣れ、和訳する。中等教育の英語学習は、概ねこのようなスタイルで進められてきたのではないだろうか。少なくとも筆者の中学・高校時代は、そのアプローチを当然のことと受け止めていた。

しかし、そのままでは英語を使えるようにはなっていない。筆者の英語学習は、ひたすら単語の意味を調べ、スペルを覚え、文法問題をこなし、ノートに和訳を書き、全体的な理解に努める...その連続であった。当時は、使えるようになることはあまり考えたことがなかった。使えるようになるには別のトレーニングが必要なのであろう、と自分なりに気づいたのは高校時代であった。また英語の成績が良いことと、英語自体に親しんでいること、学校で使う教材ではなく、生の英語を理解する力などは、また別のものであるということも次第に理解するようになった。

同時に、前述のような苦言・苦情、不平不満も頻繁に叫ばれるようになった。いわゆる国際化が進み、これまで以上に外国・外国人との接触・交流が頻繁になってきた結果、社会が実践的な英語力を必要としてきたのである。中学高校で学んだことが実践的な力として獲得されたか、いつでも使えるような知識・技能として定着してきたか、という角度から考えてみると、例えば数学や物理・化学などの教科・科目は高度になればなるほど日常生活からは乖離してしまうだろう。ここでは教科・科目間の共通性や相違点を指摘することが目的ではないのでこれ以上は触れないが、英語教育にある程度の年月を費やしてきた者としては、英語は不当に扱われているように感じる時もある。せっかく多大なる時間とエネルギーをかけて学ぶ英語だからこそ、「身につける」「使えるようになる」というスタンスでこれからのアプローチを考えていかなければならないだろう。

註1：私事で恐縮だが、筆者は教員になる前は民間企業に勤務する商社マンであった。どこの部署にいても仕事では英語が日常的に使われ、海外出張や海外勤務も当たり前の職場であった。また外国語の必要性はもちろん英語が主であったが、非英語圏に勤務する場合はたいていその土地の言葉も獲得する先輩が多かったように記憶している。ミラノ支店勤務の場合はイタリア語が、香港支店勤務の場合は広東語がペラペラの先輩方に対して、私は羨ましい気持ちを抱いていた。もちろんそれだけの能力を買われての勤務、という側面もあるだろう。

2. 社会で必要とされる英語力とは？

日本でこれほどまでに英会話教室がたくさん存在した時代はなかったであろう。具体的な数字を調査したことはないが、首都圏の主だった駅周辺に複数の英会話学校を見つけるのは困難なことではない。電車内でも、必ずと言っていいほど英会話教室の広告がある。時期によってはテレビコマーシャルを流す時もある。世の中はそれほど、「話せる力」を求めている。会社に勤務する社会人はその部署にかかわらず英語学習の必要性を感じているだろうし、学生は純粋に「話せる力」を獲得することを欲し、同時に就職に有利な条件と考えている部分もあるだろう。業種・職種によっては英語が使えることが当たり前の場合もあるだろうし、そのような場合に備えることが英語学習のモチベーションになっていることもある。

このように考えていくと、少なくとも中高の6年間、場合によってはそれ以上の年月を英語学習にあてているのだが、使えるようになるためにはさらに別の学習が必要ととらえられていることが分かる。また、これまではOJT (on the job training) や会社で行われる研修を通して培われてきた英語力が、最近では事前にその力を獲得していることが求められているようだ。ある新聞の記事では、某総合商社の入社前研修の様子が紹介されていた。その会社では、インターネットなどを通じて入社前に100時間の中国語(北京語)学習を義務づけているという。「何故中国語なのか」という問いに対しては、「これからの市場動向を考えると中国語ができる社員の育成が急務であり、また英語を使える力はすでに当たり前のことになっているから」という答えであった。このことはいくつかの重要な点を示唆している。つまり英語の必要性の度合いとそのレベルを明確にしなければ、「何をもって使える英語力と考えるか」が曖昧になってしまうということである。

企業では語学力は業務成果に影響を及ぼすことにつながる。英語力が大きく影響するような業種・部署では、英語力のみならず、交渉力や説得力、その裏付けとなる市場や商品内容に関する知識やデータの獲得など多くの要素が関連する。仕事で用いる英語という観点からは、流暢さ・発音・豊富な語彙などよりは、むしろ上に述べた総合力がより重要になるのはいうまでもない。

これはビジネスという側面から見た実践的な英語力であるが、海外旅行が日常的になってきたこと、身近に外国人がいることが特別な状況ではなくなってきたこと、映画や音楽などを通して文化・芸術などが翻訳だけではなく生の姿で楽しむことができるようになってきた、などの時代背景を考えると、社会はますます国際化が進んでいくことが考えられる。一部の人が高度な英語力を持つ時代から、ある程度英語が使えて当たり前の時代へ推移しているように思われる。また、外国イコール英語圏、外国人イコールアメリカ人といったステレオタイプの考え方は徐々に少なくなってきており、世界の様々な国家・地域・民族との交流は、英語をその共通語とする度合いをますます高めていくことだろう。英語を身につければ、新聞・雑誌やテレビ・ラジオなどの媒体を通してダイレクトに様々な情報やエンターテインメントに触れることができる...そのような時代になってきているのではないだろうか。英会話教室が存続する条件は、生徒が絶えず通っていることであり、そのためには通うこと、つまり授業が楽しくなければならぬ。そして通うことによって、自分の力が伸びていることを実感で

きななければならない。

英会話教室に関心を持ち、実際に通う状況を考えて、その人はある程度の語彙や文法の知識があり、意欲も関心もあるが、英語を使う機会に恵まれなかったのではないか、と思われる。ある意味では、英会話学校の隆盛は学校教育で培った基礎力を期待しているだろうし、また集団の一斉教育ではなかなか手が行き届かなかった部分を提供することに大きな意義を持っているものと考えられるのである。そのような視点をも考えて、今後のあるべき英語学習の姿を模索していくことが現段階での課題であると思われる。

英会話学校は様々なニーズに応えるべく、レベルや内容、授業形態などが細分化されていることと思われる。基本的な語彙や文法が身に付いていないのに、世界情勢や経済・外交などを語ることはできないだろう。だから日常のことを簡単な英語で言えるようにするとか、すくなくとも外国人・外人（この言葉は好きではないが）に対して憶することなく接することができるようにすることなども、会話学校に通う大きな目的になりうるだろう。また大学入試に備えて忍耐強く学習を積み重ねてきた人は、高度な単語や構文・表現に触れてきている。ただし音声を含めた実践的な学習の機会がなかったわけだから、自由に聞いて話す機会を持ったり、基礎的な文章の反復練習をすることで相当の実践力が獲得できるようになるだろう。実際に使える英語力という話題で、随分前になるが、新聞だか雑誌で紹介されていたエピソードを思い出す。英語圏の国に転勤となった商社マンは、その木訥とした人柄も相まって、あまり流暢に英語を話すことはできなかった。現地スタッフとのやりとりも苦労していたのだが、ある時仕事に関しての文書をまとめなければならないことになり、彼がその文の作成を担当することになった。その英文が非常に高度かつ格調高い語彙と文章で構成されていたので、一気に職場の尊敬を集めるようになったというのである。この話は、これまでの英語学習・英語教育の優れた内容と不十分であったポイントの両方を物語っているものと思われる。言語は思想・文化の本質であり、同時にコミュニケーションの道具であるのだが、これまでの英語教育（便宜上ここからは従来の英語教育と呼ぶ）は後者の役割をあまり重視してこなかったと言えよう。

ここで「社会で必要とされる英語力」を定義しなければならない。ここで言う社会は、少なくとも高校での学習を終え、場合によっては大学や専門学校での高等教育・専門教育を受けた人たちが活躍する場ととらえたい。海外旅行や映画や演劇、ポップアート鑑賞などの個人的趣味や交友関係は別として、仕事上で外国語で書かれた文献や資料を読み取ったり、外国語で手紙やメールなどを書いたり、直接外国人と会議・打ち合わせや交渉する場で自分の意見を述べ、相手を説得させることができる英語力と考えたい。そのような状況・場面にいるということは、ある程度の社会常識・経験を積み、実務を任される立場にいることを意味する。そこで憶することなく自分の意見を述べたり、公平な立場でビジネスを進められることが、分かりやすい形での「社会で必要とされる英語力」と考えることができるだろう。仕事をする場としての社会は、「会社・企業」「もしくはNPOやNGOなどの組織」と考えることができるかも知れない（もちろん自営や起業も含めて）。またインターネットやメールが普及した昨今では、気軽に情報を入手する場合も当たり前のように英語が介在する。以前のように、英語を使う場合は通訳を通してではなく、本人が直接英語を駆使する時代になってきていると思う。

（註2）

誰もが程度の英語力を駆使して仕事をしたり、日常生活を営む時代になってきたとは言っても、それが流暢な英語・こなれた英語である必要はない。きちんとコミュニケーションがとれれば多少の文法や語法、発音などはそれほど重要ではない。またそれぞれのバックグラウンドを持った英語というものも市民権を得ているものと思われる。中国人は Chinese English を、韓国人は Korean English を、そして日本人は Japanese English で構わない。Japanglish という言葉もあるくらいだ。相手に誤解なく伝わり、誠意や誠実さが理解できることが「道具としての英語」のスタンダードだと思う。そのように考えていくと、実践的なトレーニングというものは、特別なことではないことが分かる。言いたいことが伝えられる、相手の言っていることがおおかた分かり、必要に応じて確認したり質問したりできることが最低限のラインと考えると、おそらく高校1～2年くらいの語彙・文法のレベルと慣れがポイントとなるだろう。この「慣れ」には英語を使う機会の量と質だけでなく、普段からどれだけ英語そのものに触れる機会を持ったか、が重要である。このことは後で再度論じることになる。

註2：通訳は不要の時代になったのか、とえば答えは決してそうではない。どんなに英語が堪能は人であっても、国を代表するレベルでの会議や、専門性が高いコンベンション・学会などでは通訳をつけるのが常識になっているようだ。プロの通訳でも、その場面で必要な用語や知識を事前に準備しなければならない。通訳の経費はその準備段階から計算される、と元外交官の通訳の方から直接聞いたことがある。

3．入試問題の推移

「従来の英語学習」では、「ヨコのものをタテにする」英語学習およびその力が重視されてきたように思われる。しかしそれではなかなか使えるような力に結びつかない。発信力が育たないのである。発信力を身につけるには、とにかく使ってみること、使う環境をつくり出すことである。ある程度理解力と学習習慣があれば、例えば海外勤務になったり、留学したりして仕事・学習も日常生活もすべて英語という環境にいれば、英語は使えるようになるだろう。しかしこれは誰もが置かれている状況ではない。つまり、普通の英語学習で「いかに使う環境を設定するか」が重要となる。

ここで大学入試問題のあり方と英語発信力の育成の接点を考えてみたい。自ら英語を発信する力は「英作文」で問われることが多い。その英作文問題への対策として、問われやすい構文や熟語を含んだ文を数百覚えることが近道とされてきた時代もあった。しかし上述のような変化とともに、本来の意味の「発信力」を問う問題も増えてきた。受験生の立場からすれば負担は大きいかも知れないが、このような流れに対応すること、発信力を身につけるために日常的に書く機会を増やすことは本来の英語学習の目的に合致していると思われる。「～について自分の意見を英語で書きなさい」といった出題が定着することは、受験生・採点側の双方にとって大きな負担であろう。しかし英語学習は大学受験のために存在するのではなく（他の教科・科目も同様であるが）、使える力を養成することこそが本来の目的・目標となるはずだ。入試が変われば、受験生・生徒のアプローチも変わる。むしろその動きを当然とした学習・授業が主流となっていくのではないだろうか。

私自身の経験を思い出してみたい。都内の区立中学、都立高校で英語を学んだ私は、残念ながら授業や課題で一度も自由英作文を書いたことがない。英語を勉強することは好きだったので、中学2年の頃は自分でサイドリーダーを探して読んだりはしたが、簡単な自己紹介や好きな食べ物・趣味のことなどを書く機会があったらさらに英語の力を伸ばしていけたことと思う。もちろん、意識をもっと高く持っていれば、カリキュラムや授業内容に関係なく自分からいろいろなことを展開していけるわけだが、学びを広げるという意味では、個人の意識や力とともに環境の影響力は大きいと思う。今となっては遅いが、授業をこなすだけでなく、いろいろな本を読んだり、英語で日記を書いたり、とすべきこと・できることはたくさんあったはずだ。しかし当時は、自分から担当の先生に相談したりすることなく、せいぜい英語の歌を聴いて意味を調べたりしているうちに、高校受験を意識する時期になってしまった。高校では自分から始めた学習は、せいぜい早めに大学受験に向けた単語の理解と暗記や、文法・語法問題くらいのものであった。その中には英作文もあったが、この段階では英語そのものを書くのではなく、まずは日本語との格闘にとどまっていた気がする。

旺文社が編集した「2007年度受験用 全国大学入試問題正解」に記載されている2006年度の大学入試で出題されたいわゆる「自由英作文問題」の主だったものを紹介して、その意図や対応、大学の姿勢を考えてみたい。まずは私立大学から。

青山学院大学（文）

次の設問について、50語程度の英文を書きなさい。

What is the difference between writing a personal letter by hand and sending an e-mail?

Which do you prefer and why?

非常に身近な話題からの出題である。若い世代を中心に、連絡はメールが中心となっているが、手書きの手紙との違いを問う問題である。50語程度とそれほど長い英文を要求しているわけではないが、ふたつの違いとどちらが好きか、さらにその理由と、三つのことを織り込まなければならない。メールは即時性がある・簡単・時間を気にせず打てる、手書きの手紙は誠意が伝わるなどのメリットを書き、自分が感じるポイントを説明すれば及第点はもらえるだろう。簡潔な文章と英語らしい論理性を求めているものと思われる出題である。

慶應義塾大学（経済）

ガメラ（Gamela）は、サイアナム（Sianam）という架空のアジアの国にある港町です。サイアナムは、人口800万人の国ですが、とても貧しい国です。国の経済は、主に、観光業で成り立っています。ガメラは、サイアナムで最も有名な観光名所を持つ人口125万人の古い町です。ところが、二週間前に、その町を悲劇が襲ったのです。大洪水が起こり、その町の大部分が人の住めない状態になってしまい、貧困地区の全ての家が全壊してしまいました。更に、今、伝染病が流行しています。現在、サイアナム政府では、災害対策案の選択肢として、次ページの三つの案（A,B,C）を検討しています。どの案にもそれぞれ長所と短所があり、どの案も採用可能です。

問題：「あなたがどの案を支持するかを英文で論理的に述べなさい。」

注意事項：1. 長さは、100語以上にしなさい。

2. あなたが指示する案に関して、必ず長所と短所に言及しなさい。[三つの案は省略]

行政・政策の具体的なアイデアとその理由を問う出題である。100語以上なので、ある程度の量の英文を書かなければならない。しかし、同時に細かなことを並べるとあっという間に語数になるはずだ。この国の事情を考えた上で現実的な対応を考えるわけだが、何故その案を支持するか、の理由づけが最も重要な要素となるので、そこに重点を置く配分にする必要がある。どの案がベターか、という問題ではなく、どれを選ぶにせよ説得力があるかどうか、がポイントであろう。

慶應義塾大学（医）

What kind of master would you like to have if you were a pet? Write your answer in English in about 80 words.

身近な素材だが、ペットの立場から見た飼い主像を問うユニークな問題と言えよう。ペットにとって好ましい飼い主の姿を具体的に書きながら、その理由を書きたい出題である。つまり良い食事や住居の提供だけではあまりにも一般的である。それ以外の、何か個性的な視点を書き、その理由を添えることで完成度を高める出題なのではないか。

甲南大学（文・経）

外国人に日本の食べ物を一つ紹介する50語程度の英文の書け。

簡単そうで、なかなか難しい出題だと思われる。日本特有の食べ物を知っているかは当然のことだが、その厳密さはどうなのだろうか。例えば天ぷらはもともとはポルトガル料理であるように、日本の料理は中国や朝鮮半島の影響を受けているが、そのあたりは常識的な範囲で考えればよいと思う。しかしその料理の特性や性質、食べ方を英語で説明するのは結構むずかしい。豆腐や納豆など、素材の説明は簡単だが、作り方や「発酵食品であり、糸を引く」などの表現は無理に書かないようにしたい。にぎり寿司、すき焼き、寄せ鍋などが無難か。

聖心女子大学（文）

次の状況を想定し、40～60語の英語で答えなさい。

You are a writer for travel brochures*. Introduce a place for a trip that you think is suitable for a family with three children between the ages of four to thirteen. You can write about a place that really exists or an imaginary place.

***brochure = pamphlet**

漠然と「家族連れ」ではなく、子どもの人数と年齢が指定されているので、その状況に適した場所を紹介したい。旅行パンフに載せる記事なので、それらしい設定や内容が必要となる。それぞれの年齢の子ども達と大人も楽しめる施設・要素を盛り込むことを考えると、採点官がイメージしやすいように実在の観光地を選択する方が書きやすいか。

清泉女子大学（文）

次の（１），（２）から１問を選択して、英語で解答せよ。解答には必ず理由を含めること。また、与えられた紙面の範囲にできるだけ多く書くこと。（解答欄は200mm×15行）

- （１） Which do you prefer, traveling alone or traveling in a group?
- （２） Which do you prefer, taking part in sports or watching them?

どちらの話題に関しても、その選択肢はそれぞれの良さがある。だからどちらを選んでも、その理由は個人的な考え・好みになる。一人旅ならば静かに、自分のペースで楽しむことができ、グループなら親睦を深められることが一般的なメリットだが、解答の量を考えるとなるべく具体的な理由をたくさん書きたい。

立命館大学（2月2日実施 国際関係学部、文学部英米文学専攻志願者のみ）

次の設問について60語以内の英文で答えなさい（50語以上が望ましい）。また、使用語数を書きなさい（ただし、句読点は語数に含みません）。なお、他人の著作やあらかじめ用意した英文をそのまま使用してはいけません。以下、異なる日時の試験もこの説明は同じ

[設問]「日本国内に課題が山積している現状を考えれば、発展途上国をこれ以上支援することはできない」。この主張に対するあなたの賛否を明らかにした上で、なぜ賛成するのか、あるいは反対するのか、その理由を述べなさい。

立命館大学（2月3日実施 国際関係学部、文学部英米文学専攻志願者のみ）

[設問] レストランでの喫煙について、あなたの意見を述べなさい。

立命館大学（2月5日実施 国際関係学部、文学部英米文学専攻志願者のみ）

[設問] 自分の飼っているペットに多くのお金を使う人たちをどう思いますか。

最初の出題は国際・外交に関するもの、後の二つは比較的日常的なことである。いずれにせよ普段からそのような話題に関しては一般的な物の見方と複数の視点からの常識的な意見を持つていなければならない。その上で、「自分はどう思うか」という独自性を要求されているものと考えられる。そう言う意味ではレベルの高い出題である。

早稲田大学（国際教養）

In recent years the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT) has been encouraging public elementary schools to provide English conversation lessons

during the periods devoted to General Studies. This has led to widespread discussion concerning whether English should be made a compulsory subject at the elementary level.

What is YOUR opinion?

Do you think that English should be made a compulsory subject from the first grade of elementary school in Japan?

Or, do you think that English should not be taught in elementary school at all?

Or, is your opinion somewhere between these two extremes?

Write a paragraph defending ONE of these three positions, giving at least one appropriate reason to support your opinion. (解答欄は幅144mm×8行)

問題の設定・説明も英語で書かれている。このような問題に備えるのであれば、小学校での英語教育の是非などは当然の話題と言えよう。1年生から始めるべき、まったく教えるべきでないという両極端の話題だけでなく、その中間的な意見をも選択肢に入れているところが現実的であると思われる。いずれにせよこの3つから選び、個人的見解を書くわけだが、言語学習・習得の時期や成長過程に関して自分なりの意見を入れなければならないのだから、これも深みのある出題と言えよう。

私立大学に関しては以上である。意外と少ないという印象を受ける。次は国公立大学で出題されたものを紹介したい。こちらは数が多いので、まとめて考察と対策を考えたい。

愛知教育大学(前 - 教)

これから一年間海外で暮らすとしたら、あなたはどこで何をして過ごしたいか。100語程度の英語で書け。

旭川医科大学(後 - 医)

以下の電子機器や電化製品を見たことがない外国人と会話しているときに、どのようなものであるかを説明する必要が生じました。リストの中から一つ選び、その形状、用途、使い方、その他の特性について英語で説明しなさい。

携帯 MD プレーヤー (portable MD player)

携帯電話 (mobile phone)

電子レンジ (microwave)

炊飯器 (rice cooker)

冷蔵庫 (refrigerator)

岩手大学(前 - 教)

日本という国を外国人に紹介するとします。ある人は美しい自然のことを述べるかも知れません。富士山があって昔から和歌にもうたわれてきたと話す人もいるでしょう。またある人は自然よりも文化の話をしたり、おいしい食べ物のことを話したりするかも知れませんね。あなたなら外国人に日本をどう紹介しますか。75~100語程度の英語で紹介文を書きなさい。

大阪外語大学（前）

「成熟した大人」になるとは、どんな人になることだとあなたは考えますか。そう考える根拠、理由を示しながら、100語程度の英語であなたの考えを書きなさい。

大阪教育大学（前 - 教）

問5 あなたがこれまで中学校、高校、塾、予備校、英会話学校などで習った英語の先生の中から一人選び、その先生との思い出について、100語程度の英語で述べなさい。先生は英語の native speaker である必要はありません。（問1～4は省略）

小樽商科大学（前 - 商）

次の質問に80～100語程度の英語で答えなさい。ただし、句読点は語数には含めない。Describe one environmental problem facing Japan. What steps should be taken to solve this question.

香川大学（前）

In our lives we all have many teachers. All the way from kindergarten to high school and university we have teachers talking to us, advising us, teaching and even sometimes scolding us. What are the qualities of a good teacher? Describe one teacher you admire, his or her character, influence on you, etc.

金沢大学（前）

If you could meet two people in history, who would you like to choose? Give their names and explain in English why you would like to see them. You can use about 80 words.

北九州市立大学（前 - 外）

次の英文を読んで、文末の問いに対するあなたの考えを、60語以上80語以下の英文で述べなさい。
Much of what we see in television programs and movies includes scenes of explicit violence. Some believe that this violence has created an atmosphere in which human life is not respected, and that this has led to rising levels of violent crime. Others believe that while images of violence have increased, violence on a screen is simply entertainment and cannot explain the behavior of people who commit violent crimes.

The question is: Should there be laws to prevent the showing of explicit violence in television programs and movies?

群馬大学（前 - 教）

次の論題に関して100語以上であなたの考えを英文にしなさい。

What experience in your life has influenced you the most? Choose an important experience.

Describe it clearly. Explain how it has influenced you.

高知大学（前）

次の英語で与えられたテーマ（１）～（３）の中から一つ選び、それについてあなたの意見を100語程度の英語で書きなさい。

- （１） "The best teacher I ever had"
- （２） "My high school life"
- （３） "My future plan or dream"

神戸大学（前）

今までの人生で、過去のある特定の時点にもう一度戻れるとしたら、あなたはどの時点に戻り、何をしたいですか。その理由を具体的に示し、80語程度の英語で答えなさい。ただし、第一文は If で始めなさい。

神戸市立外語大学（前）

In essay form, please write approximately 100 words in English in answer to the following questions.

Have you ever thought of experiencing an adventure? What kind of adventure would you have?

静岡大学（前）

Read the following Japanese conversation. Then, in English, write what you think about telling lies. Make sure you present your idea clearly and explain it using specific examples. Your answer should be about 120 words long.

美穂：うそをつくのはよくないよね。 健太：うん、でも場合によってはうそをつく方がいいってこともあるよね。 真吾：その「場合によって」というのがむずかしいところだね。
--

下関市立大学（中 - 経）

次の英文を読みあなたの意見を約100語の英文で述べなさい。

Last year marked the 60th anniversary of World War . Nevertheless differences of opinion remain between Japan and her neighbors, especially China and South Korea. 2005 also witnessed mass anti-Japan demonstrations in these countries, related to, for example, Yasukuni Shrine, territorial disputes, textbook issues, etc. Choose two of the issues and discuss what can be done to solve them.

都留文科大学（中 - 文）

- ・あなたは、英語圏のある国で具合が悪くなり、病院に行くことになりました。医師に自分の症状を伝える必要があります。伝えたい内容について30語程度の英語で書きなさい。
- ・あるアメリカ人に「ランドセル」と言ったところ通じませんでした。国語辞典で「ランドセル」を引くと、「オランダ語 ransel の訛り」と出ていました。「ランドセル」を30語程度の英語で説明しなさい。

東京大学（前）

(A) 次の会話は、ある小学校のの運動会 (sports day) の種目についての先生どうしの議論である。

A 先生 (Mr. A) と B 先生 (Ms. B) の主張とその根拠を明確に伝えるような形で、議論の要点を60～70語の英語で述べよ。

以下略 (A 先生は競争心をあおる種目は避けたいと主張、一方 B 先生は運動会のおもしろさが半減して子どもが喜ばない、ある程度の競争心は勉強でも大切だと主張)

(B) あなたがいままでにした大きな決断について、60～70語の英文で説明せよ。ただし

- (1) その時点でどのような選択肢があったのか
 - (2) そこで実際にどのような選択をしたのか
 - (3) そこで違う選択をしていたら、その後の人生がどのように変わっていたと思われるか
- という三つの内容を盛り込むこと。適宜創作をほどこしてもかまわない。

東京学芸大学（前 - 教）

Read the passage below and write a composition in English of about 200 words in which you state your own opinion about the topic.

Non-native English-speakers worldwide now outnumber native ones 3 to 1. In Asia alone, the number of English users has topped 350 million - roughly the combined populations of the USA, the UK and Canada. The new English-speakers are not just passively absorbing the language - they are shaping it. New Englishes are mushrooming the globe over, ranging from "Englog," the Tagalog-infused English spoken in the Philippines, to "Japlish," the cryptic English poetry beloved of Japanese copywriters ("Your health and loveliness is our best wish," reads a candy wrapper). Some people say that in the future, there could be a tri-English world, one in which you would speak a local English-based dialect at home, a national variety at work or school, and an international Standard English to talk to foreigners. There is a growing sense that students should stop trying to copy native-speaker English, and use their own local version.

長崎大学（前）

次のことについて、100語程度の英語で答えなさい。

Face-to-face communication is better than other forms of communication, such as writing letters, sending e-mail, or making telephone calls. Do you agree or disagree? Give reasons or examples.

名古屋市立大学（前）

次の設問に100語程度の英語で答えなさい。

When does someone become an adult? Do you consider yourself to be an adult? Answer these questions and explain why you think so.

㉑ 一橋大学（前）

Write 120-150 words of English about one of the topics below. Indicate the numbers of the topic you have chosen. Also, indicate the number of words you have written at the end of the composition.

1. What would you do with 100,000,000 yen?
2. Japan should open its doors to foreign workers.
3. The age of adulthood in Japan should be 18, as in many other countries.

㉒ 一橋大学（後）

Write 130-150 words of English about one of the topics below. Indicate the number of the topic you have chosen. Also, indicate the number of words you have written at the end of the composition.

1. Being feared is more important than being respected.
2. Religion has no place in modern society.
3. University education is useless in today's world.

㉓ 一橋大学（後）

以下は、死刑制度の是非についての二つの発言である。以下の（1）、（2）の各々の主張を、20語以内の英語にまとめて述べなさい。[主張は省略]

㉔ 弘前大学（前 - 人文・医）

あなたは友人から次のような相談を持ちかけられました。これに対するあなたのアドバイスを75～100語の英語で書きなさい。

「私は韓国に留学して韓国語を勉強したいと思っていますのですが、両親も祖父母も、韓国では日本人に対する感情が悪くなっているから、韓国には行かせないと言うの。でも、私は日本と韓国の関係が悪くなっているときだからこそ、韓国に行って韓国語も韓国の歴史も文化も勉強して、韓国に対する理解を深めたからどうしても行きたいと思っているの。どうしたらいいと思う？」

②⑤ 福井大学（前 - 教育地域）

あなたが旅行するとします。あなたは一人旅の方を選びますか。それともだれかと一緒に旅行することを選びますか。どちらを選ぶかをまず述べ、次にその理由を英語で書きなさい。英文の長さは解答欄を満たす程度とします。

②⑥ 福井県立大学（前）

ある女性が新聞の人生相談の欄に、上の②のような相談をしてきました。あなたが相談を受ける側だと仮定して、この女性へのアドバイスを英語で書きなさい。回答欄に書ける長さ（200語程度）にまとめること。（②は和文英訳問題）

「私には21歳の息子がいます。彼は高校を卒業して以来、働いたことがありません。毎日、テレビを見たり、コンピューターゲームをしつかりするだけです。私は時々、仕事をみつけるように励みますが、彼は私の言うことを聞きません。」

②⑦ 福井教育大学（前）

読書の仕方は十人十色である。推理小説、ノンフィクション、エッセイ集、伝記、専門書、雑学など、数多くのジャンルがある中、一作家の作品ばかりを立て続けに読む人、あらゆる分野を読みあさる人、時間をかけ難解な書物を熟読する人もいる。また、ペースもさまざまで、一週間に一冊の人や、年に一・二冊しか読まない人もいる。

これまでに読んだ本の中で、あなたにとって最も強く印象に残っている本は何ですか。一冊をあげ、その内容（分かればタイトルも）を簡単に英語で説明した後、その本が何故、またはどのように印象に残っているかについて、英語で具体的に述べなさい。語数は全体で約150語程度とする。

②⑧ 福島大学（前）

次の英語の質問に対して、100語程度の英語で自分の考えを書きなさい。

If you can acquire a new skill, what will it be and why?

②⑨ 宮城教育大学（前 - 教）

以下の三つのトピックから一つを選んで、自分の考えを5行以内の英文で述べなさい。

1) Many car accidents are caused by young drivers. Should the age requirement for obtaining driving licenses be raised to 20?

2) To encourage young people to learn English, books like the Harry Potter series should not be translated into Japanese. Do you agree? Why?

3) "Health is more important than wealth." Do you agree or disagree? Why?

③⑩ 横浜国立大学（前 - 経）

Read the short article below and answer the question that follows.

Visitors to Sweden often notice that children's TV programs contain no commercials. Since 1991, Sweden has put a stop to TV advertising aimed at children under the age of 12. A majority of Swedish parents support this move. They know that boy commercials often lead to children bothering their parents with constant demands to buy the product. In fact, many countries in Europe are thinking of following Sweden's lead.

Question

Do you think Japan should have similar restrictions on commercials during children's TV programs? Give your opinion in about forty words. Answer in English.

① 琉球大学(前)

あとの問に答えなさい。

あなたは多額の予算を2つのプロジェクトのうち1つに使うことになりました。1つは日本の伝統や文化を発展させるためのプロジェクト、もう1つは日本の環境を守るためのプロジェクトです。2つのプロジェクトのうち1つを選び、選んだ理由と、あなたがどのようなことをするのか、例をあげながら150~200語程度の英語で具体的に述べなさい。

与えられた課題に対してあなたがどのような立場をとるかは採点に関係ありません。課題に対して、適切かつ明確に述べなさい。なお、文法やスペリングも採点の対象になります。

以上が、同問題集に収められている自由英作文のすべての出題である。大学の数と出題比率を考えれば、国公立大学の方が明らかに自由英作文の出題が多いことが分かる。出題のレベル、受験生の人数、試験実施から合格発表までの時間的余裕などの事情を考えれば、無理もないものと思われる。しかし、このような採点に手間暇のかかる出題(註3)をするということは、大変良心的な入試を実施していると考えることができる。次に出題内容であるが、身近なことがらが多い。一人旅がいいかグループで行くのがよいか、一億円あったらどんなふうにするか、過去の自分に戻れるとしたらどの時点に行きたいか、などである。はからずも同じ出題をしている大学もある。特別な知識や主義・主張を期待するのではなく、英語の試験なので何を答えてもよいが、英語らしい表現と論理性・展開を要求しているものと考えられる。まずは自分なりの意見・結論を明確に述べること。次にその理由をはっきりと展開させることであろう。語数は80~100語が多い。これは長からず、短からずの適当な量と言えるだろう。例えば、ある意見に対してまず「賛成か反対か」という方向性をはっきりさせた上で、具体的な理由や例をすくなくとも3つあげていくことが最低限必要となるだろう。時間配分も考えると、日本語で内容を考えて日本語でメモや下書きを作成し、それから英訳していったら恐らく間に合わないだろう。自分なりの論旨を考え、Firstly.... Secondly... Thirdly... とスラスラと英文が出てくれば心配はないだろう。入試問題への対策という意味ではなく、英語学習に関しては自分の考えていることを英語で書ける力こそが「コミュニケーションのための使える英語」であるはずであり、目標とすべきことであろう。日常の学習の中で、自分なりの英語を書く練習を重視すべきである。英語・などのテキストでは、習った文法事項や表現を使って「~について書いてみよう」というコ

ーナーがあるが、どのくらい実行されているのだろうか。

英語学習は四技能をバランスよく伸ばすことが必要である。「書く・話す」は一斉授業で最も実行しにくい内容かも知れないが、特に「書く」ための時間と機会を確保することが重要である。評価との兼ね合いがあるが、まずは書くことを定着・習慣化させたい。早期の段階から、「真似て書く」ことを継続することが最も効果的な方法と、私自身は考えている。

註3：採点そのものも客観問題と比較すればその違いは明らかである。同時に難しいのが採点基準と公平さの徹底であろう。私自身も定期考査で自由英作文を出題する場合は、まず「書くことを奨励する」ことを第一としている。つまり、たくさん書けばそれだけ点数が加算される、というシステムである。スペリングや細かな文法・語法で細かな減点をするのではなく、文章をいくつ書けたか、織り込むべき内容をきちんと入れているか、などを加算して基本得点を設定する。そしてスペルミス・punctuationのミスなどをまとめて、同じ項目のミスで全体から1点マイナスのような形で採点している。もちろん打ち合わせも採点自体も非常に時間とエネルギーを費やす。

4．中等教育における英語発信力の育成について

英語学習はよく4技能に分けて考える機会がある。「読む・書く・聞く・話す」のこの4技能は、それぞれ2種類の範疇に分けることができる。一つは音声を伴うか、という分け方である。この中で「聞く・話す」は音声を伴う学習であり、「読む・書く」は伴わない学習である。もう一つの側面はinputとoutputである。前者は「読む・聞く」であり、後者は「書く・話す」である。学校教育という現実を考えていくと、一斉授業では「読む・聞く」を多く採り入れ、個別指導では「書く・話す」を重視することになる。従来 of 英語学習においても、理解を徹底させることは困難であったが、これからの時代背景や生徒の将来、ひいては日本および国際社会の将来を考えていくと、さらに発信力の育成を重視した指導が急務となっていくだろう。

発信力の育成に関しては、まずやってみることが必要である。学校教育においては、カリキュラム・評価など様々な制約があるが、日常の授業や試験の中にかに取り入れていくか、が重要なポイントとなるだろう。特に初学者の段階で、言語を学ぶとは使えるようにすることであるという認識を高めていくことが必要である。従来 of 学習方法で不足している発信力を伸ばしていくには、大きな変化が必要である。そのためには、授業のあり方・日常の学習のあり方・高校入試や大学入試のあり方をも見直していくことが大切である。これは一教員や一学校の取り組みでは解決できない問題であるが、英語教育に対する認識がすこしずつではあるが変わってきており、大学入試の方向性・内容にも変化が見られるこの時期にこそ本気で検討する段階に来ているものと思われる。

5 . 日常的な授業はどうあるべきか - 日常の授業との関連

英語を判じ物のようにとらえ、ひたすら単語を覚え、文法問題をこなしていく。たしかにこれらのアプローチも大切であろうが、これからは生徒が自分の言いたいことを英語で発信できるような力を育てていかなければならない。一つは授業のあり方をどう設定するかであり、もう一つは英語力とは別の視点で、様々なことに興味・関心を持ち、それらに関して自分の言葉で意見を言える状況を設定することである。教材・授業形態のあり方も、理解・演習・記憶というパターンだけではなく、自分で考えて自分の意見を持つことが必要となってくる。問題解決能力以前に、問題発見能力も必要であろう。また、落ち着いて人の意見・発言に耳を傾け、意見の相違を当たり前としてディベート・ディスカッションができるような体制がより重要となってくるだろう。一口に発信力と言っても、その根底にあるものはとてつもなく大きな要因を含んでいる。そのような大局観に基づいた上で、これからのより良い英語教育を考え、実践していきたいと願っている。

私の勤務する学園では、3年前より新しい取り組みを始めた。具体的には、検定教科書ではなくコースブックと多読を中心とする授業である。「教える・習う」ではなく、「自分で理解していく」ことをポイントとしている。授業は英語で行う。基礎は大切だが、「ここで理解が不十分だと先に進めない」と考えるのではなく、「大切なことは何度も繰り返し出てくるから心配しない」、というコンセプトで授業が進む。単語指導なども、日本語の訳を覚えるのではなく、まず音声と使い方・スペルを理解させる。単語試験(小テスト)も、教員が発音したものを生徒が書くというスタイルをとっている。授業の様子を描写すればまだまだ書くことはあるが、ある程度定着したパターンもあれば、試行錯誤の段階の指導法もある。まずは教員間のコンセンサスと、生徒および保護者に対して理解を求めることからこの改革はスタートしたが、その効用についてはまだ語るべき段階ではない。また何をもって成果と考えるか、もなかなか難しい問題である。この本校の新しい取り組みに関する詳しい報告・考察は、また別の機会に譲りたいと思う。現段階で一つだけ言えることは、生徒の「読む力」が伸びていることである。四技能をバランスよく、という表現を使ったが、基本的なインプットが大切なのは言うまでもない。本来の英語力とは、を常に問いかけながら、これからも個人として、私学人として英語教育に取り組んでいきたいと思う。